

考え



暴論だったら
ぶん投げろ！

弦楽器イルカ⇒友人

さて、今回も勝手な妄想を4つ紹介したい。

その一、ドラマ『天誅』の幻のボツ回を勝手に妄想してみた。

タイトルは、「～復讐の黒天使～」。

場面は京本の古武術の道場から。「素敵な香りがする」と親衛隊のおばちゃま三人組に囲まれる京本。

「最近、日本古来のお香について勉強しているんです。今たいしているのは安眠効果と、少し催眠の効果もあるお香なんですよ」

「まあ、まるで夢の中にいるみたい。先生と一緒に夢の国へ行きたいわ～♡」と、おばちゃまがたメロメロ。

場面変わって、スナック「天守閣」。テレビでは総理の祖母が亡くなったニュースが放送されており、ミツ子が総理（三ツ矢の一人二役）に似ていると話題に。

「えー？ 似てないわよー。ん、オッホン。私には夢があります。オカマによるオカマのための景気対策こそ、この国に最も自信を取り戻す活力になるのであります！」

「ヨッ！ ミツ子総理。良い夢みせてもらったよ、アバヨ！」

「へえ。総理のばあちゃん、亡くなったんだ」とピン子。

「そうなのよ。どうも総理は子どもの頃からエライおばあちゃん子で、全く頭が上がらなかったらしいわよ」と近所の情報通のおばちゃん。

次いでテレビは変わって、2週間前に原発の作業員が、作業中に心不全で亡くなったというニュースを流している。因果関係はなし。

そんなとき、「ヘルプ天使」のサイトに匿名のメールが届く。

「原発作業員が連続襲撃されている事件の謎を探してほしい」

早速、慎吾が調べてみるが、新聞やニュースではそんな報道はやっていない。そこでピン子がサナに指示して、妙にカッコつける例のメガネ刑事の人から情報を入手しようとする。

「俺に調べろって言われても、そもそもお前がやったんじゃないのか？」と妙にカッコつけるメガネ刑事。噂ではフードマンが、作業員たちを背後からスタンガンで襲い軽傷を負わせているらしい。

「私に人を襲う理由などない」とサナ。

「どうだかな。一応俺も調べてみるが、お前が真犯人だったら、今度こそ俺が捕まえてやる」と、女子がキュンとなる萌えゼリフのメガネ刑事。

そこで調べていくとどうやら、襲撃されたのはドヤ街からヤクザの斡旋で流れてきた日雇いの元ホームレスばかりだということがわかる。タコ部屋に何人も押し込められ、劣悪な環境でピンはねされながら働いている者たちだ。中には、名前を偽って線量をごまかしている労働者もいる。

しかし、そういった状況を公表されたくない電力会社や国が、マスコミや警察に圧力をかけ、

この事件は内々で捜査されている。メガネ刑事も、顔の怖い帝都物語の刑事の人に捜査を止められてしまう。

「なぜ止めるんですか！」

「なぜもヘチマもあるか！とにかくこの事件には首を突っ込むな！」

そんな折、「ヘルプ天使」のサイトに新たな犯行予告メールが届く。

「犯人からのメールだ。明日の午後10時、また作業員を襲うらしい」と慎吾。

「でもなんで？」とミツ子。

「なんでもヘチマもあるかい。……サナ！」ギラリと光るピン子の眼。そして決めゼリフ。

「ヘッチュウ」「え？」ずっこけるサナ。

「やだね、クシャミだよ。誰が噂してんだろ。……サナ。天誅！」

「承知」

そしてサンドイッチ。「ごめんね、今日米切らしちゃって」とピン子。

予告時間に犯行現場で待ち伏せすると、確かに黒づくめの女らしき人影が作業員を襲おうとしている。取り押さえるサナ。あっさり捕まる女。

「お前は何者だ？」とサナ。しかし、女はサナよりも周囲を気にしている。

「……マスコミは来てないの？」と女。

しかし、女とサナを取り囲むのは、待ち伏せていた警官隊だけだ。帝都物語の怖い顔の刑事がメガホンで呼びかける。

「マスコミに犯行予告を流したのはそこのお前か。マスコミには緘口令を敷いている。こんなところには誰も来ない。おい、義賊野郎。さっさとそいつを警察に引き渡せ」

「どうも気に入らないね。……サナ」と後ろからピン子。そして決めゼリフ。

「ヘッチュウ」「え？」ずっこける一同。

「やだね、またクシャミだよ。……サナ。撤収！」

「承知」

取り囲む警官隊を煙玉で文字通り煙に巻き、闇に消えるピン子ご一行様。

「21世紀に煙玉で逃走って、忍者かつーの！」と帝都物語の刑事。

「案外、本物の忍者かもしれませんよ」とメガネ刑事。

「バカな。とにかく探せ！」

再び、場面はスナック「天守閣」。

「あんた、なんでこんな事件を？」とミツ子。

「あたしの父は、2週間前に、作業中に心不全で死んだんです」

「あ、そんなニュースやってたね、確かに」とミツ子。

「父は生前、ずっと作業員全体の待遇について、憤っていました。自分はまだいい、周りにはもっと低賃金で過酷に働かされてる人たちがいっぱいいる。誰かがやらなきゃいけないのに、誰も見向きもしない。それが許せないって」

「でも、それで作業員を襲って何になるのさ。逆ジャン？ 良い夢みれないぜ？ カワイ子ちゃん」

「マスコミにかけ合っても、父の死だってほとんど取り扱ってくれませんでした。それならい

っそ、作業員の周りで事件を起こしたほうが、マスコミも取り上げてくれるんじゃないかって。巷で噂になっているフードマンになって、しかも本物のフードマンも呼べば、きっと騒ぎになるって」と、うなだれる女。

「そうかい。でも暴力じゃ何も解決しないよ」と、ピン子。

「え、自分でそれ言う？ 毎週天誅って決めゼリフで悪を懲らしめてる総元締めが？」とミツ子のツッコミ。

「ごちゃごちゃうるさいオカマだね。いちいちカマうなつての。水戸黄門だって、助さん格さんが悪を懲らしめるのは暴力じゃなくて、世直しなの。とにかくそういうことなら、あんたをここで警察に突き出すわけにはいかなかったね」と、ピン子。

「え？」

「いっちょう派手に、あたしたちの流儀でやらしてもらおうじゃないの。ババアをナメンじゃないわよ。……サナ！」遂に、ピン子の眼がギランと光る。

「天誅！」

「承知」

そして握り飯。

翌日から、白昼堂々、作業員がフードマンに襲われる事件が続発。しかし、襲われるといっても、額にxの傷が付けられ防護服が破られたのかと思いきや、ただ赤い筆で額に○印を書かれただけ。しかも足元にはなぜか必ずスタミナドリンクがそっと置かれている。

「いったい何考えてんだ、フードマンめ！」と帝都物語の刑事。

時同じくして、作業員の家や昼食をとる会議室に、合計3000人分くらいのラーメンや寿司の出前がジャンジャン届く。

「これいったい誰の支払いですか？」

「え？ 総理から直々の電話がかかったって聞いてますけど」

「総理？」

受話器の声「あ、総理だが。オッホン。作業員に釜飯500人分、あるだけドンドン持って行っちゃってくれたまえ！」

「はい、毎度あり！ さすが総理、太っ腹ですね！」と釜飯屋。

「これがホントのカマ飯よ、なあんちゃって！」

テレビでは、国会前の囲み取材でインタビューを受ける総理。

「あ、良い夢テレビの者ですが。総理がポケットマネーで作業員に寿司やラーメンをおごっていると大変評判になってますが、一言」

「いやなに。総理として当然のことをしたまでだよ。……え？」

その晩、古武術で警備の者を気絶させ、ピッキングで総理の寝室に潜入し、総理の枕元でお香をたくピン子ご一行様。

「起きなよこのスカポンタン！」と、ピン子。

「え、誰？ ん、なんか変な匂いが」と、寝ぼけまなこの総理。

「誰ってあんたはホント子どもの頃からバカな子だよ。ばあちゃんの声を忘れたのかい」

「え、ばあちゃん？ おばあちゃんなの？ でもこの前お葬式を」と総理。

「死んだから霊になって出てきたんだろうが。最近の作業員の騒ぎとか、出前とか、全部ばあちゃんの仕業だよ。知ってたかい？」

「知らないよ。おばあちゃん。あの件、メチャメチャお金損したよ。いったいどうしてあんなことしたの？」

「損だって？ あんたは本当のバカだよ。お国のために日々戦っている労働者をないがしろにする総理なんて、あたしの孫じゃないよ。それを知らしめるためにやって来たのさ」

「そうだったんだ、ごめんね、おばあちゃん」

「それより、冥土の土産にあんたにひとつやってほしいことがあるんだよ。作業員の月収を最低でも月100万円以上にしておくれ」

「え、無理だよそんなの。財源がないよ」

「バカモノ！ それが今でも苦しい作業に従事している人に向けて言う言葉か！ ない財源を作ってこそその総理だろう！ いいかい、国民の鼻っ面にニンジンぶら下げて、俺に着いて来たらウマイ汁吸えるぞって金で釣るだけが総理の仕事じゃないよ。

本当の指導者ってのはね、まずたくさんの人々が納得できる公平な夢を語るの。そして夢の実現のため皆様に頭を下げて願います。これが本当の政治ってモンだよ。ババアをナメンじゃないよ」

「わかったよ。おばあちゃん。僕、頑張るよ」

早速、翌日の緊急記者会見では、総理が作業員の月収を100万円以上にする待遇改善策を発表している。

「これで少しはあんたのお父さんも報われたかね」とピン子。

「ありがとうございます。なんと御礼を言っていていいか。これから、警察に自首して来ます」と女。

「え、いいんじゃない？ 誰も訴えてないから逮捕されないかもよ」とミツ子。

「私の気持ちの問題です。一から出直したいんです」と女。

「そう。頑張りな。みんな応援してるから」とピン子。

「握り飯、差し入れに行く」とサナ。

「ありがとう！」と去っていく女。

「へ、へ、ヘッチュウ。しかしなんでこうクシャミが多いのかね、今回は」と、ピン子。

「もしかして、先生のお香のせいじゃない？」とミツ子。

「そうか。蚊取り線香ならぬ、ババア線香ってワケだね」と慎吾。

「何言ってるんだい、年寄り大事にしないと地獄に堕ちるよ。……サナ！」と、ピン子の眼がギラリと……

全員「ヘッチュウ！」

そしてDragon Ash。ナレーションとエンドロール。

さて、続いては、爆発した原発の近隣地域を盛り上げるとご当地ヒーローとして、『原発戦隊ハ

イロマン』ってどう？ バイオマンみたいじゃない？

メルトダ・ウン星からの侵略者「プルトニ・ウム大帝」が、「セシ・ウム作業員」や「ストロンチ・ウム怪人」を使って、全世界をヒバクさせてしまった！ 地球の裏側のブラジルとかでは実はそんなに困ってないけど、悪の秘密基地がご近所にある江古路地（えころじ）商店街では、避難すべきかどうかで住民が分断されている！

そこで、サイ・セーカノー星から降り注ぐ光を浴びた商店街の子どもたち5人が、自然エネルギーと「防護スーツ」「全面マスク」を身に付けて悪と対決する。

おてんばな女の子「フタバ」は地熱の赤、気は優しくて力持ちな男の子「オオクマ」は太陽の黄、普段はおっとりだけど怒るとコワイ女の子「ナミエ」は水流の青、いつもさわやかな男の子「トミオカ」は風力の白、そして身軽で野生児な男の子「ナラハ」はバイオマスの緑。

それぞれ5色のスーツは重いし暑いし線量の制限もあるから、悪との戦いは制限時間との戦いでもあるけれど、地域住民が仲良く暮らせる未来を夢見て、5人は悪と立ち向かう。

決めゼリフは「ハイロ・完了！」

人が住めなくなった無人の町をロケ地にしたり、フラガールと一緒に除染作業したり、ケーブル繋いだり水漏れ防いだり瓦礫撤去したりタンク溶接したり、今日のワンボイスってコーナーで各地に避難した住民の声を紹介したり、題材に事欠かないと思うんだよね。

Eテレでストレッチマンみたいにやってくれないかな。

それでは三つ目。さて、新都知事も既に結構なスキャンダルを抱えていそうだから、またすぐ辞任選挙があるとしたらどんな公約の泡沫候補が面白いか、無駄に妄想してみた。

ズバリ、「東京都民を原発に作業員として送り込む」ワンイシュー候補はどうだろう。

東京電力の大株主は東京都だし、元都知事も「東京が使う原発は東京に建てろ」って言うくらいだから、まずは都知事自ら週二～三くらいで作業員として従事する。元都知事も都庁に来てたのは週三くらいだったって話だしね。更に都庁の職員もジャンジャンバリバリ送り込むし、都内のハローワークでも積極的に斡旋する。もちろんタダじゃない。

最も重要なのは、月収を最低100万円以上にすること。その金は以前、都が買い取ろうとした島みたいに、都民の血税と寄付金から捻出する計画で、最終的に国が払うって展開にもってく。

最後、投票日にはニセ投票箱を全国各地に設置して、都民以外にも勝手な投票を募って、公職選挙法違反で捕まるってオチをつけてほしい。

「国が国策で補助金を払っていたのだから、福島原発が東京の電気を作るのは仕方ないことです。

しかし、絶対に爆発しないという安全神話を騙って隠蔽を繰り返し人災を引き起こした原発からの避難や、除染、廃炉作業までも近隣住民の自己責任に押し付ける現状に、賢明な都民が心を痛めないはずはありません。これからの原発再稼働は、爆発したら誰が廃炉作業するかまで明確に契約する時代になるでしょう。

今あの場所で、誰が、何の後片づけをしているのか、全都民が五輪と同じかそれ以上に心を砕いています。そんな都民の皆さんを思いやれる都政にしたい」って演説とか妄想する。

選挙ポスターの決めゼリフは「受かるためじゃない。ウケるために出た」

まあ意味はないけどね。でも泡沫候補だったら一か八かでこんくらいは無茶な言動してほしい

。

んで最後は、最優秀五輪賞を作る案。

3色のメダル以外に、五輪と同じ5色のメダルで最優秀五輪賞を設定する。選考はロボコンの最優秀賞と同じ方式、つまり順位に関係なく、最もスポーツマンシップにのっとり、国境を越えてたくさんの人々から応援を受け、世界の平和に貢献した選手に与えられる。

そこで今回パッと思いつくのが、ジャマイカのボブスレー選手だろう。雪のない国からやって来てトラブルに見舞われても明るく、世界中から応援の寄付をもらい、でももらいすぎないよちゃんと中断し、かつ最下位でも「いろいろなことがあったが人生で楽しくないことなんてないさ」と陽気に話す。

ただ一位を目指すだけがスポーツじゃない。みんなが平和で健康、元気で前向きになるのもスポーツだ。五輪憲章とかそういう感じのアレだった気がうろ覚えでするんだけど、だったら順位だけを競うのはナンセンスだし、21世紀的じゃないと思うのは俺だけかって話。

まあ、今回はこんな感じ。

どうかな？



考えるウマシカ～第十一回 『帝都物語』とオリンピック憲章～

<http://p.booklog.jp/book/82896>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/82896>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/82896>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ